



霞ヶ浦 NEWS

VOL.4No.6

6月号 (通巻31号)

(社)霞ヶ浦市民協会 〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6

TEL 0298-21-0552・21-0660 FAX 0298-21-6209

郵便振替口座 00120-9-726025 / 名義:(社)霞ヶ浦市民協会



第8回世界湖沼会議開催

コペンハーゲン市庁舎前広場

霞ヶ浦での第6回世界湖沼会議(1995年)以来、早や4年が経過し、第8回会議がこのほど、5月16日から21日までの会期で、デンマークのコペンハーゲンで開催されました。この会議には、霞ヶ浦や琵琶湖からの日本人約120人をはじめ、約60カ国から約400人余が参加し「持続可能な湖沼管理」をテーマに発表、討議、ワークショップ、NGOセッション、視察が行われました。霞ヶ浦からは、茨城県参加団として橋本昌知事以下11名、県民参加団として掘越昭当協会理事長以下18名が参加しました。

開会式は、コペンハーゲン市のミッケルセン市長の歓迎挨拶、デ

ンマーク環境エネルギー省のアウケン長官によるデンマークの湖沼の環境対策と展望についての紹介に続き『いばらき霞ヶ浦賞』受賞者に橋本知事から賞状、記念メダル、副賞が手渡されました。最後にスウェーデンのファルケンマーク教授が世界の湖沼の現状と問題点について記念講演を行いました。

デンマークにはたくさんの湖沼があり、以前は富栄養化が深刻な問題になったそうですが、王立薬科大学のヨルゲンセン教授らの研究成果を応用した面源対策が効果を奏して、水質が著しく改善されました。それらは、緑化などをふくめた放牧地や農地の適正管理、湿地を利用した排水浄化、住宅地から

の排水の処理場による徹底浄化を主とするもので、特に全リンに着目して、処理水の公共用水域放流時には、0.2 mg/l以下に浄化するという厳しいものです。こうした先進的な取り組みに学ぶことが今回の意義の一つでした。

霞ヶ浦からの参加者は、市民活動、環境教育、浄化対策、浄化の技術開発などについて発表し、意見交換をしました。また、デンマーク、スウェーデン、ノルウェーの水辺事情を視察し、特にスウェーデンではストックホルムのメーラレン湖の水を利用している市の水道局を訪問、交流を行いました。次回の第9回会議(2001年)は発祥地の琵琶湖で開催されます。



平成11年度通常総会開催

平成11年度通常総会は、5月30日午後1時から土浦市亀城プラザで開催され、会員690名のうち、521名（委任状427名を含む）が参加しました。平成10年度の事業報告・収支決算報告及び平成11年度事業計画・収支予算案が、慎重かつ円滑に審議され、いずれも原案通り、承認されました。

冒頭の理事長挨拶で堀越昭理事長は、前年度総会で指摘のあった運営体制の確立について、社団法人霞ヶ浦市民協会組織運営規則を整備するとともに、事務局に専従の事務局長を配置するなどして事務局体制を強化し、この諸規定に基づく組織運営を実行することによって解決したことを報告しました。事業の実施にあたっては、総務部門の他に、環境情報、調査研究、浄化推進、環境教育、総合交流の5部門を設置し、それぞれの部門を副理事長が責任をもって担当するという6部門体制を採用したことを報告しました。さらに、「組織規約策定委員会」と「業務等請負業者選定委員会」の2専門委員会を設置し、円滑な運営を行っていることを報告しました。当協会の今後の活動方針についても次

の3つの点を強調しました。

まず、当協会活動の基本として「泳げる霞ヶ浦」の実現をめざすこと、そのために「泳げる霞ヶ浦2020市民計画審議会」を設置し、基本計画と行動計画を策定、実践することを言明し、この活動への積極的参加を会員に呼びかけました。事業の進め方については、会員主役のフィールドでの実践活動と行政・民間・市民のパートナーシップを心がけた運営につとめるとの基本方針を披瀝しました。

最後に、財政基盤については、自主事業の成果にもとづく当協会開発の技術等による受託によっても確保していくとの見解を示しました。平成10年度の事業報告及び収支決算については、諸規定の制定、組織改革、運営体制の確立、6部門、3専門委員会体制採用に至る経緯が詳細に報告されたあと、全体運営や各事業の実施状況を説明しました。

平成11年度の事業計画・予算案については、6人の副理事長がそれぞれ、担当事業部門の事業計画を説明しました。当会のメイン事業である「泳げる霞ヶ浦推進事業」で浄化推進のムードを盛り上げるためのポスターづくり等、また、地

域に埋もれたままになっている地域の技術を見直し活用するために浄化技術アイデア・コンペを行う、浄化推進を進めるなど斬新な自主事業の計画が説明され、こうした事業を推進していくための分析器械等を備えた研究室設置計画が説明されました。

また、当協会の運営を活発なものとするために流域各地において交流会を開催し、会員や地域の方々の意見を運営に反映させ、さらに、流域支部を設置する計画について説明が行われました。

予算案では、管理費及び事業費としてそれぞれ1650万円及び4189万円が予算化された以外に研究室整備費として500万円が計上されました。また、カップ基金については、「泳げる霞ヶ浦」関連の事業を目的に、300万円が計上されました。予算案に対する質問では、給与等の算定根拠について質問があり、地方公務員の給料に準じて給与等が決定されたとの説明が行われました。その他にも、幾つかの質疑がありましたが、約2時間の審議を経てすべての議案が比較的スムーズに承認されました。

通常総会後に森田三郎氏の講演「谷津干潟復活！どろんこ人生」では、さらに一般の聴衆の参加者も加わり、会場は熱気につつまれました。

閉会後には森田三郎氏を囲んで懇親会が行われ、今後の活動や流域支部構想、あるいは、研究室のあり方等について活発な意見の交流が行われ、午後6時、平成11年度通常総会すべての行事が終了しました。

平成10年度事業報告

＜組織運営＞

総会1回、理事会9回、三役会議13回
専門委員会：組織規約策定委員会12回
業務等請負業者選定委員会2回

＜事業報告＞

(1) 交流啓蒙事業

◇泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル開催

◇霞ヶ浦夏休み教室（建設省霞ヶ浦工事事務所委託）

◇霞ヶ浦インフォメーションセンター「水の交流館」運営事業

・霞ヶ浦夏休み何でも相談室開設

・水循環ワークショップ・パートII（合併処理浄

化槽学習会、公益信託「エコーいばらき」助成事業）

・環境と暮らし井戸端会議

・ケナフから紙をすく

・JICA 湖沼水質保全研修生と当協会会員との交流会

・各市民団体との交流と研修（6回、

- 300名参加)
- ・自然観察会(2回開催)
 - ・霞ヶ浦ジュニアレンジャー養成講座(建設省霞ヶ浦工事事務所、土浦青年会議所共催、4回開催、280名参加)
 - ・霞ヶ浦インフォメーションセンター施設内水質調査
 - ・霞ヶ浦水理実験モデルの作成と水理実験の実施
- ◇新川クリーンアップ事業(新川清掃活動5回実施)
- ◇湖上セミナー研修会(霞ヶ浦問題協議会、茨城県委託、18回実施)
- ◇「泳げる霞ヶ浦」水辺交流会
- (2)実践研究事業
- ◇霞ヶ浦生活関連汚濁水路浄化対策調査(茨城県委託、清明川、高橋川、小野川、桜川で実施、250名参加)
- ◇市民による水質調査報告会及びシンポジウムの開催(牛久市、阿見町、美浦村で開催)
- ◇霞ヶ浦情報マップ作成資料収集事業(建設省霞ヶ浦工事事務所委託)
- ◇霞ヶ浦に関する調査データのデータベース化事業(国立環境研究所委託)
- ◇生物調査業務(茨城県霞ヶ浦流域下水

- 道事務所委託)
- 霞ヶ浦北浦タナゴ調査(財団法人霞ヶ浦水質浄化推進財団助成事業)
- ◇連続シンポジウム第5回「環境ホルモンと私たちの暮らし」
- ◇市民による霞ヶ浦湖沼観測(平成10年12月から月1回実施)
- ◇新川浄化プロジェクト事業(島根大学委託(花壇式浄化水路による浄化実験))
- ◇流域管理対策調査事業(島根大学委託、土浦付近の河川70地点の水質調査)
- (3)全体運営事業
- ◇社団法人霞ヶ浦市民協会の組織改革
- ◇組織運営規則の制定
- ◇事務局の整備(ファインシステム、パソコン、車両等の整備)
- ◇調査研究器械の整備(分光光度計、顕微鏡、天秤、遠心分離器の整備)
- ◇会報霞ヶ浦NEWS発行(毎月2200部)
- ◇年報の発行(第8号400部発行)

平成11年度事業計画

- (1)環境情報事業
- ◇会報等の発行
- ◇環境情報データベース化事業

- ◇霞ヶ浦情報マップ作成事業
- ◇ホームページ作成事業
- (2)調査研究事業
- ◇連続シンポジウム開催
- ◇ビオトープ研究事業
- ◇霞ヶ浦環境保全自主研究事業
- ◇研究室設置事業
- (3)浄化推進事業
- ◇泳げる霞ヶ浦推進事業
- ◇市民参加による水質調査
- ◇水質浄化アイデア・コンペ事業
- (4)環境教育事業
- ◇自然観察会の開催
- ◇新川プロジェクトの推進
- ◇新川浄化プロジェクト事業
- (5)総合交流事業
- ◇インフォメーションセンター「水の交流館」管理運営事業
- ◇泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル開催
- ◇第8回世界湖沼会議における論文発表及び国際交流
- (6)全体運営事業
- ◇流域各地における交流会の開催
- ◇専門委員会等の運営
- ◇流域支部の設立

平成10年度収支決算書(抄)

単位:円

一般会計

科目	決算額	主な内容
1 収入の部		
会費収入	2,830,000	
事業収入	62,345,755	
交流啓発	4,773,000	受託費等
実践研究	41,597,235	受託費等
全体運営	15,975,520	受託費等
寄付金	104,140	
雑収入	550,746	
繰越金	15,671,938	
収入の部合計	81,502,579	
2 支出の部		
管理費	19,602,507	
人件費	5,210,311	職員給与等
賃借料	1,820,000	事務所家賃
会議費	522,166	総会・理事会
旅費交通費	346,819	
通信運搬費	579,999	郵送代、電話料
消耗品費	1,185,753	事務用品等
その他の一般経費	2,201,416	リースコピー代
事務所整備費	7,736,043	
事業費	24,750,315	
交流啓発	4,000,810	
実践研究	14,181,715	
全体運営	6,567,790	
予備費	0	
支出の部合計	44,352,822	
一般会計収支	37,149,757	

平成11年度収支予算書(抄)

単位:円

一般会計

科目	予算額
1 収入の部	
会費収入	3,650,000
事業収入	34,210,000
総合交流	19,610,000
調査研究	1,600,000
浄化推進	4,000,000
環境情報	7,000,000
環境教育	2,000,000
全体運営	0
寄付金	200,000
雑収入	100,000
繰越金	37,149,757
収入の部合計	75,309,757
2 支出の部	
管理費	16,500,000
人件費	8,400,000
賃借料	2,400,000
会議費	720,000
旅費交通費	420,000
通信運搬費	840,000
消耗品費	720,000
その他の一般経費	3,000,000
事業費	41,891,000
総合交流	15,474,000
調査研究	3,500,000
浄化推進	7,340,000
環境情報	12,007,000
環境教育	2,000,000
全体運営	1,570,000
研究室整備	5,000,000
基金への繰入	3,000,000
予備費	8,918,757
支出の部合計	75,309,757
一般会計収支	0

東海道にある瓜二つの景色（3）

升 秀夫(土浦市 会員)

黒潮の日本沿岸の接近地点は四国の足摺岬と室戸岬。本州では、紀伊半島突端の古道である、古座街道、熊野街道の分岐地点である周参見(すさみ)から潮野岬沿岸で、まさに本土直撃に近い流れにある。次に伊豆半島に接近するが、直撃は稀れであり、伊豆諸島を迂回したり、直進して東方に流れたり、実に複雑である。だが、どのように蛇行しても不思議なことに黒潮は、房総半島突端の野島崎、勝浦から大原に向かい、銚子の沖合いで東に右折して日本から離れてしまう。流速は2～3ノットであるから時速約5km前後であり、その水温は、夏、陸が35度に気温が上昇しても、海面が25度を越えることは稀で、逆に冬に陸が氷点下であっても、銚子沖の黒潮本流が20度を下ることも少ない。汽水域に生きるイシマキ貝の幼生の生存に適した水温は、大和の民族にとっても、東国、奥州を目指す場合には、夏は冷房、冬は暖房効果のある黒潮の流れは有り難い。

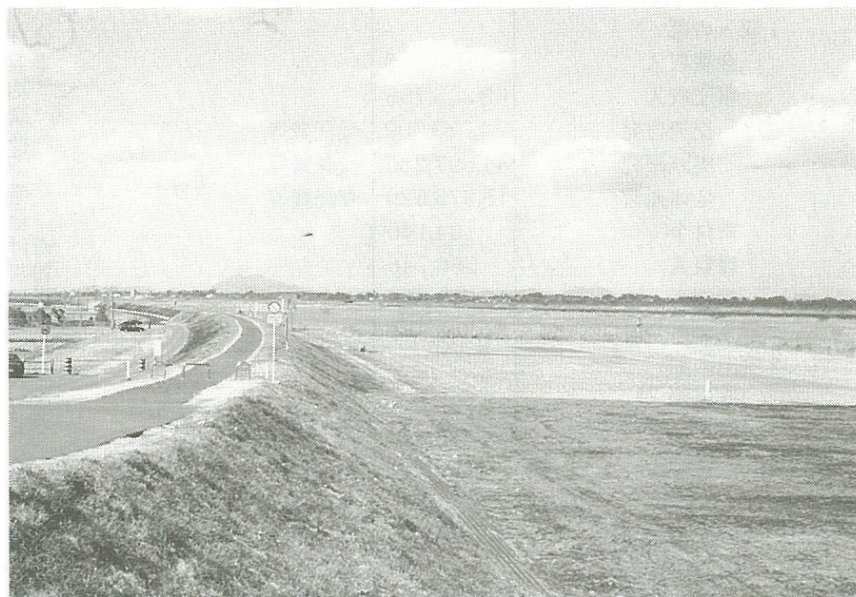
さらに、古代の舟は、舟底にキールと言う横風を前進力に変える仕掛けがなかった。そればかりか、帆も現在のセーリングクルザーのような三角帆ではなく、帆布と呼ばれる麻や綿の長方形の追い風用の帆だったため、後方からの風でなければ進めない。一昨年、沖縄の漁師が、一人乗り小型漁船で1ヶ月漂流したあげく、銚子沿岸で漁船に救助された。黒潮のおかげである。したがって、帆走力に乏しい古代の舟は、銚子を目指すのが、利に適った航路であったに違いない。もちろん、コンパスの無い時

代の航行だけに、その航法は、地文航法と天文航法で、沿岸から離れる遠海航行は避けていたと想像する。それらの結果、終着点が銚子すなわち当時の海上であるとするなら、海を上がるから、海上(うながみ)とも読むことができる。ここから先、黒潮流に舟を任せれば、行き先は三陸沖数百キロの沖合いであり、さらに流れは赤道に向かうのであるから、次の上陸可能な地点はポリネシア諸島ということになってしまい、舟中で生き長らえることは不可能であろう。これはイシマキ貝の幼生とて同じことである。

これらを総合して考えると、大和の民族とすれば霞ヶ浦は、往来しやすい東国であり、人物の交流

賀の大津と霞ヶ浦湖畔の木原に見られる「瓜二つの景色」と大杉神社宮司の「中臣氏」推理から始まっているのだが、大杉神社自体、阿波、あんばさま、とか呼ばれているのではない。阿波とは四国の徳島県であり、黒潮の日本沿岸の接近地点は、四国の足摺岬と室戸岬であるからして、大杉神社そのものに黒潮の香りが染み付いていて、沿海民族の私には嬉しい存在である。

近代、霞ヶ浦に水門が作られ海と遮断された結果、本来は自由なはずの水の往来に、規制がかぶせられたことで、土浦港の水が海へ出るには1年の月日を必要とする建設省が公表した。平成の世では、銚子から霞ヶ浦に入り込む水



利根川河口堰から潮来、霞ヶ浦方面に見える筑波山(写真3)

が当時としては激しかったならば、大津宮建立についても、かの地には霞ヶ浦と「似た景色」があることへの魅力があったのではないだろうか。

だいたい、この話の発端は、滋

門からの遠望は、水門のおかげで茫漠たる干拓の地面が広がり、内海のかなたの筑波山を望むことは出来ない。(写真3) 銚子沿海を航行し船の操舵室から遠方の筑波山だけを凝視すれば、上代、大和民

族やら源義家、北畠親房らの高さ
で、内海たる霞ヶ浦を多少なりで
はあるが味わうことができる。そ
れにしても、常陸利根川河口堰水
門を通過するたびに感じることは、

この水門は、じつに仰々しい大仕
掛けであり、兵が潜んだ巨大木馬
を受け入れた、あの城門に感じら
れてならない。ちなみに、この大
仕掛けの水門を、3枚も上げ下げ

して通過しても通航料は無料であ
り、経費たるや莫大なものではな
いかと、そのお支払いをいただい
ている同胞に感謝しつつ土浦港へ
向かう洋汀丸である。

会員だより

近くて遠い霞ヶ浦

堀越 靖子(美浦村 会員)

私の住んでいるところは、霞ヶ
浦に極近く、青々と広がる田圃を
隔てていつでも霞ヶ浦が見える。
しかし春先の産卵期に葦の中に上
る鯉や鮒をとるのが好きな特定の
人々を除いては、殆ど霞ヶ浦に行
く人はいない。まして子供達は、
まったく霞ヶ浦には関心がない。
まさに近くて遠い霞ヶ浦である。

最近、近くの堤防のそばに農村
公園が造られ、高いやぐらが建っ
た。孫たちを連れてそのやぐらに
登ると、皆が皆、霞ヶ浦を通り越
して玉造の『ふれあいランド』や
対岸の霞ヶ浦町のお城、土浦市の
建物などに目をやりわいわいと騒
ぐ。「学校などでみんなが飲んでい
る水道の水はどこから採っている
と思う？」とたずねると「遠くの
方」「わかんない」とすぐ近くに取
水塔が見えてることを全く知らな
いし、あれが何であるかなど全く
関心もない。「昔は夏になると各地
域毎に下の霞ヶ浦で小中学生は毎
日泳いだんだよ」というと、「毎日
来たの」「泳いだの」と疑い深げな
顔をする。

「こんな汚い水で泳いだの？」生
まれた時から今のような濁り水の
霞ヶ浦しか知らない子供達には、
夏にみんながここで泳いだことを
簡単にはわかってもらえない。

夏休みは…霞ヶ浦の大きなプー
ル…遠浅で、岸にはアシやマコモ
がたくさん生え、そのかげに舟が
二、三そうつないであって、3m
程の板が水上に張り出していると
ころから次々に水に入り、湖底に
見える鳥貝を「タンケイみつけ」な

どといくつもとって家へ持ち帰り、
切り干し大根と煮て夕飼の膳に並
べたことはとても懐かしい。また、
水泳監視当番があって、親達が農
作業に忙しいので、おばあさん達
が出て、ひざ程まで水に浸かって
洗たくをしながら大きな声で話し
たり、笑ったりするのが、広い水



美浦村馬掛から日の出を望む

面に響き、子供達の騒ぐ声と入り
交じって何とものどかで楽しいひ
とときであった。

春先、暖かくなると、子供達は
幼い子もみな一緒になって裸足で
毎日霞ヶ浦近くへいき、水路の中
をかけまわり、フナやエビガニを
素手でつかまえて遊び、重いバケ
ツをさげてそれぞれ家へ帰ってい
く。夕方勤めから帰ってみると、泥
まみれの格好で畳の上に眠ってし
まっていたものだ。いかにも満足
気な顔をして。

私が土浦から美浦に嫁いだのは
昭和32年春。前述のようなのだか
さは昭和30年代から40年前半に
かけてのことで、今のような霞ヶ
浦は30年もそれ以上もかかって、
いろいろな悪条件が重なってでき

てしまったことで、短期間に一気
に戻すこと、以前のままだに戻すこ
とは当然無理なことである。しか
し何とか以前に近い湖に戻したい
という願いはみな持っている。そ
れならせめて、老若男女みんなが
足しげく霞ヶ浦へ行って現状をよ
く見、知り、なぜこうなったか、を
本気で考え、「自分達にできること

は何か」「しなければならない事は
何か」を真剣に考えて、わずかな
事でも実践していかなければなら
ない。その点、昨年秋に行われた
水質調査やその後のシンポジウム
は、多くの親子が参加し直接現状
を見、自ら調査に関わったことで
大変意義深い事業であった。参加
者全員が自らの生活を見直し今後
も関わっていききたいと話している
ことからこれから期待される。

それにしても、あの公園のやぐ
らの上から見る筑波を臨む霞ヶ浦
の雄大な眺望は素晴らしく人々を
魅惑するに十分である。

来客がある度に誇らしげに案内
して、「こんなに美しいとは思わな
かった」などの声を聞いて喜んで
いる私である。



茨城県環境白書 (99年版) 霞ヶ浦の水質横ばい

県内の環境の現状や対策を総合的にまとめた、最新版の環境白書が茨城県から発行されました。その中に97年度の霞ヶ浦などの湖沼の水質データが収録されていますが、ほぼ横ばい状態で推移しており、「種々の対策の効果がなかなか表れない」としています。ちなみに霞ヶ浦の水質はCOD 8.4mg/lでやはり横ばいの状態です。しかし都市部以外の中小河川の水質は改善傾向にあるということです。また白書では、「環境ホルモン問題」に取り組むことが初めて明記され、今年度中に県内の河川や湖沼で実態調査が行われます。その他、大気環境、廃棄物問題にも言及されています。

「茨城県環境白書」 頒価 1500円
社団法人茨城県公害防止協会
TEL:029-231-2892

霞ヶ浦環境センター 基本計画発表

茨城県は、このほど霞ヶ浦の水質保全など総合的な水環境の調査研究や市民活動及び交流の拠点となる「霞ヶ浦環境センター」(仮称)の基本計画を発表しました。それによると、このセンターを「水環境の保全と創造のシンボル」として、調査研究と技術開発、環境学習、市民活動との連携、支援、国内外との交流、情報の収集発信の拠点として位置づけています。建設予定地は、土浦市と霞ヶ浦町にまたがる地域です。敷地面積は6～7haで、湖面が見渡せる台地には展示

室、多目的ホール、交流サロン、展望ホールを設けた展示交流棟と研究棟が設置されます。また、湖畔の低地には、汚濁除去の実証試験や水辺の生態系観察ができる野外フィールドが設けられる予定です。なお現在水戸市石川町にある茨城県公害技術センターの水質分析部門が霞ヶ浦環境センターに移るとのことです。

霞ヶ浦環境センターは、4年前の茨城県で開催された世界湖沼会議に橋本知事が建設構想を打ち出していたものですが、財政難に加えて共通認識が得られるまでに時間がかかっていました。今後の日程は、2000年度にかけて用地買収と基本設計、2001年度に実施設計、2002年度に着工、完成予定は2004年度となっています。

つくば市「水環境フォーラム」

研究学園都市を擁するつくば市は、環境条例の施行(98年)、環境基本計画の策定(99年)など、環境保全対策のリーディングシティとして積極的な取り組みが見られます。さらに同市は、「つくば水環境フォーラム」を2000年2月初旬に「つくば国際会議場」で開催することになりました。その概要によると「つくばから蘇れ、未来の水環境」をキーワードに、「科学と自然そして地域との共生」を基本テーマとして、基調講演、国際ワークショップ、水質浄化プロジェクトの成果発表などが予定されています。つくば市では、「霞ヶ浦水的路クリーンアップ事業」のなかで

つくば方式による河川、水路の直接浄化システムの開発にも取り組んでおり、その成果発表の場としても、この水環境フォーラ

ムを位置づけています。また、女性の参加を重視して、事前の水辺ワークショップを市内各地で実施して「IDOBATA文化の復興」を目指すということです。

ホテイアオイで水質浄化

土浦市では霞ヶ浦の水質浄化対策として、去る6月9日、市内霞ヶ浦流入河川の新川、備前川にホテイアオイの投入を行いました。ホテイアオイは窒素、リンを吸収して生育する性質があるので、霞ヶ浦の富栄養化の原因となっている窒素、リンを除去する働きがあります。市では9年前からこの投入を行っていますが、昨年は、窒素約137kg、リン約15kgを回収した計算になったそうです。今年は新川に1800株、備前川に1200株が投入されましたが、これから夏にかけて急速に成長し、株数で百倍以上、重量で5百倍以上に増えるそうです。間引きをしながら、秋まで生育させ、回収したホテイアオイは肥料として畑に還元します。

ガン・カモ類 重要生息地域ネットワーク

ラムサール条約締約国会議が、中米コスタリカで5月10日から9日間の日程で開かれ、114カ国が参加し、国際的に重要な湿地を登録するための新しい基準や、干潟の積極的な保全を求める決議案など34の決議・勧告案が採択されました。このなかで、わが国のよびかけによる「東アジア地域ガン・

セキスイは、暮らしの視点から環境にやさしい製品を、環境を損なわないシステムで生産し続けます。

一緒に暮らそう、セキスイと。

SEKISUI

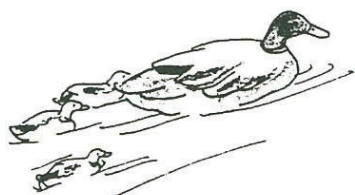
積水化学工業株式会社

〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4 (堂島関電ビル)

ホームページアドレス <http://www.sekisui.co.jp/>

© 積水化学は、経団連自然保護基金を通じて、アジアのさまざまな自然保護活動を支援しています。

カモ類重要生息地域ネットワーク」の発足も決まりました。このネットワークには日本、ロシア、中国、韓国、フィリピンなど6カ国の25カ所が参加し、日本からクッチャロ湖(北海道)、佐潟(新潟)、米子水鳥公園(鳥取県)琵琶湖(滋賀県)など14カ所が参加しました。また沖縄の漫湖も重要湿地として正式に登録されました。



5月の定期観測結果から

5月31日南風の中を湖岸から観測を行いました。そのためか透明度が大変に低く霞ヶ浦町崎浜地先では30cm、沖宿地先では38cmでした。しかしながら湖心に近い霞ヶ浦志戸崎や麻生町天王崎では透明度が60cmに上昇し、水色も明るい緑色を示していましたので、この透明度の低下を、風だけのせいにするにはできないようです。その証拠に、CODが湖奥部で9.5であるのに対し、湖心付近では6.3mg/lと比較的低い値を示しています。この湖奥部のCODを押し上げているのは、プランクトンの珪藻類や原生動物です。春先に多く出現していた糸状藍藻類(オシトラリアやフォルミディウム)は勢力を弱め、最も多く分布している麻生地先でも1ml当たり3000個程度となっています。

K-NETダイジェスト

1999年4月

本欄では霞ヶ浦に関する新聞記事の見出しを中心に、ダイジェストを収録しています。

(収集紙、M:毎日 J:常陽、A:朝日、Y:読売、JL:常り、M:毎日)

3日 大日本猟友会水鳥の中毒死防止のため湖沼付近の鉛散弾銃禁止、各都道府県の猟友会に通知(Y)土浦市のレストラン経営者ら有効バクテリアで産廃物を肥料に変える完熟堆肥化システムに成功しリサイクルに加え、家庭用消滅機を開発(JL)取手市相野谷川に浄化施設、木炭、植生など自然活用(Y)

6日 国の規制値を超えるダイオキシン検出、全国2番目の高濃度、県北の焼却施設(M)

7日 「取手方式浄化施設」が完成、通水式行う1400世帯の排水を処理、(J)

11日 バス釣り通して霞ヶ浦の環境問題を考えよう土浦で「トーナメント」6月13日開催、土浦青年会議所主催(J)

13日 ヤマトシジミ増殖へ、涸沼で天然採苗試験、県内水試漁協関係者にデータ公開(J)

14日 環境アセスに水循環の視点を、中央環境審議会報告(Y)

15日 土浦市7番目の木田余ポンプ場完成、境川流域の浸水防止策、毎秒5トンの排水(Y、J) 県北、つくばなどで生ゴミリサイクル、大規模化の試み順調、スーパーやJAが参加(Y)

22日 「メダカの学校」で絶滅防げ、遺伝レベルで保護霞ヶ浦流域小学校区ごとに飼育、アザザ基金(J、28日J、A29日Y)

22日 那珂、久慈川で流量低下、小雨傾向続く、建設省渇水対策支部を設置(M)

23日 ウナギの稚魚放流、過去最高常陸利根川に8万匹、波崎共栄漁協(J)

5月霞ヶ浦観測結果

項目	土浦石田	沖宿	崎浜	志戸崎	天王崎
水温	22.7	23.9	23.7	23.6	
pH	7.70	7.94	7.88	8.21	8.08
電気伝導度	0.336	0.332	300	338	398
透明度(cm)	40	38	30	60	60
溶存酸素濃度(mg/L)	9.9	8.8	9.5	7.3	7.3
COD(mg/L)	9.46	9.68	7.02	7.05	6.33
NH4-N(mg/L)	0.23	0.08	0.09	0.06	
NO3-N(mg/L)	0.74	0.42	0.48	0.33	
PO4-P(mg/L)	0.02	0.03	0.03	0	
塩素イオン(mg/L)	35.9	36.3	36.6	42.3	53.2
プランクトン(個/ml)					
Melosira sp.	660	720	420	540	720
Synedra sp.	9360	5640	7080	5520	8520
その他の珪藻	2100	1020	1680	420	360
珪藻類計	12120	7380	9180	6480	9600
Phormidium sp.	300	240	960	240	420
Oscillatoria sp.	900	1140	2220	1080	2700
その他の藍藻類	60	60	120	60	30
藍藻類計	1260	1440	3300	1380	3150
緑藻類	420	300	360	360	780
原生動物	4560	26460	33300	12420	13320

水資源

水質
測定器

人間



セントラル科学株式会社

URL <http://www.hypermedia.or.jp/CKC>

茨城営業所/土浦市港町1-4-19フコー第2ビル ☎0298-24-3398 FAX0298-24-6236
本社/東京都文京区本郷3-23-14ショウエイビル ☎03-3812-9186 FAX03-3814-7538
他支店/営業所 大坂・福岡・千葉・名古屋・横浜・仙台

天川クリニック

・耳鼻咽喉科 医師 辻 久茂
・小児科・内科・婦人科 医師 辻 葉子

土浦市天川1-28-12

TEL:0298-22-0844 FAX:0298-23-3276

(電話で確認の上御来院下さい)

◎休診日 水曜、祭日、第2第4日曜

◎診療時間 午前8:30~12:00

午後3:00~5:30

土曜は午後5時まで、日曜は午前中のみ

※但し 小内婦の午後開始は4:00です

お知らせ

夏の霞ヶ浦何でも相談室

例年好評の「夏の霞ヶ浦何でも相談室」を次のように開設します。夏休みの自由研究、霞ヶ浦に関する質問など、専門の相談員が引き受けます。気軽にご利用ください。

開設日：7月23日(金)～28日(水)

8月25日(水)～30日(月)

時間：午前10時～午後3時

対象：小・中・高・一般

場所：霞ヶ浦インフォメーションセンター「水の交流館」

TEL 0298-21-4071

問い合わせ：(社)霞ヶ浦市民協会

TEL 0298-21-0660・0552

新川クリーンアップ

&新川水耕花壇の花植え

奇数月の第1日曜日に行っている土浦の新川クリーンアップ。どなたでも参加できます。夏の朝1時間ほど、いい汗かきませんか。また、好評の水耕花壇の花の植え替え作業を行う予定です。

日時：7月4日(日) 午前9時～

場所：田中橋(常陽新聞社より約300m上流) 集合

主催：(社)霞ヶ浦市民協会

TEL 0298-21-0552・0660

* 軍手、ゴミ袋など用意します。

いばらき湖沼環境フェスティバル

&フェスティバル IN 麻生 '99

第6回世界湖沼会議(1995)における県民意識の高まりを全県にひろげていくために、毎年開催されています。楽しい催しが盛りだくさん。

日時：7月31日(土)10:00-21:00

会場：天王崎公園(麻生町)

ステージ：霞ヶ浦水質浄化標語表彰式、

郷土芸能、大声大会、ジャズコンサート

広場・テント：自然観察会、魚のつかみ

取り、環境展、模擬店、納涼盆踊りなど

湖岸：屋形船、ヨット、クルーザー、モ

ーターボート試乗、水中 宝探し、湖

上花火大会、

主催：茨城県、霞ヶ浦問題協議会、麻生

町、建設省霞ヶ浦工事事務所など

旧桜川・植物観察会

旧桜川は、河川改修以前の桜川の旧川すじの一つです。大正、昭和初期の面影を残す旧桜川を散策しながら、植物を中心に自然観察を楽しみましょう。

日時：7月11日(日) 9:00～12:00

集合：土浦駅東口階段下電話ボックス前

講師：後藤直和先生(土浦植物友の会)

主催：(社)霞ヶ浦市民協会

TEL 0298-21-0552・0660

泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル
ーきて・みて発見! みんなの霞ヶ浦ー

夏休み恒例の楽しいイベント「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」では、霞ヶ浦湖畔の会場で、さまざまな催しが行なわれます。多くの市民の方達と交流しながら、霞ヶ浦について話し合ってみませんか。(詳細は別紙参照)

また「霞ヶ浦夏休み教室」(建設省霞ヶ浦工事事務所主催・当会共催)も同時開催されます。

日時：7月20日(火) 10:00～17:00

場所：土浦港(霞ヶ浦グランドパレス対岸・土浦ピオパーク隣接地)

主催：(社)霞ヶ浦市民協会

(社)霞ヶ浦市民協会ホームページ開設

当協会のホームページ「Kasumigaura Wave」が開設されました。霞ヶ浦についてのニュースやトピックス、また当協会の活動などお知らせしていますので、どうぞご利用ください。

<http://www1.newweb.ne.jp/wa/kasumi/>

事務局日誌

1999年5月

6日 総会打合せ会議/会報編集会議

7日 三役会/第8回世界湖沼会議参加者説明会

8日 ジュニアレンジャー打合せ

9日 タナゴ調査

10日 会計監査

12日 理事会/ピオトープ研究会発会式

16日～23日 第8回世界湖沼会議(デンマーク王国コペンハーゲン市) 出発

21日 霞ヶ浦市民フェスティバル打合せ

25日 美浦村安中小学校講師

26日 霞ヶ浦水辺ふれあい事業実行委員会/泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル実行委員会

27日 三役会議

30日 平成11年度通常総会(土浦市亀城プラザ)

31日 霞ヶ浦フェスティバル打合せ(県庁)

会員の皆様へ

皆様のおたよりをお待ちしています。霞ヶ浦に関すること、当協会・本紙へのご意見、ご提言、感想など何でも結構ですので、お気軽にお寄せください。

また会員の募集も行っていますので、入会案内のリーフレットご入用の方はお知らせいただければお送りいたします。

[5月の水質]

観測地点：土浦港地先

日	水温 ℃	透明度 cm	酸素量 mg/L
7	21.9	45	12.6
10	21.6	65	10.6
11	20.5	55	8.6
12	20.0	58	11.6
13	21.9	50	12.6
14	21.9	45	12.6
15	21.6	48	8.9
17	20.6	48	8.6
21	22.0	46	9.6
24	22.6	46	11.0

「霞ヶ浦 NEWS」

Vol.4 No.6



会員募集中! 個人会員:1口3,000円 法人会員・団体会員:各1口10,000円

発行日:1999年6月28日

発行所:(社)霞ヶ浦市民協会 〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6

発行人:堀越 昭

編集人:高木純子

印刷所:(株)柳沢印刷所

編集スタッフ:沼沢 篤・今泉文彦・鹿志村啓子